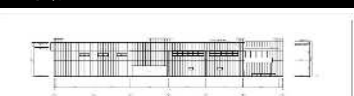
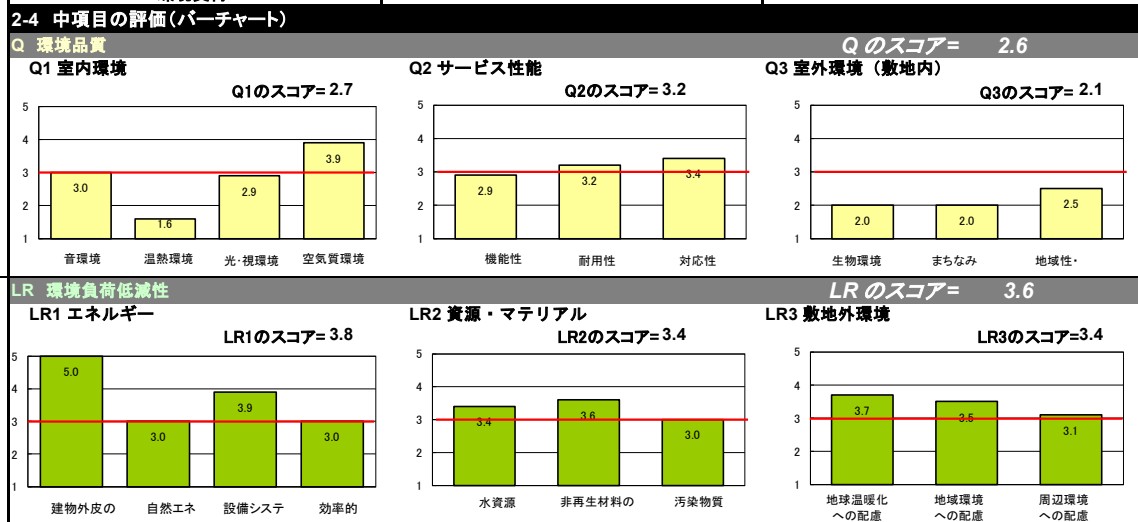
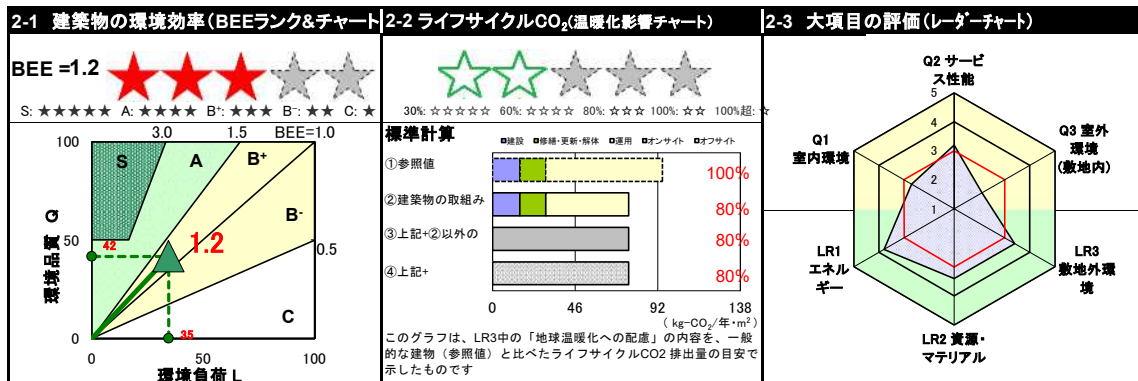


CASBEE® あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	株式会社中央エンジニアリング マニュファクチャリングソリューションセンター(MSC)		階数	地下0階地上2階	
建設地	愛知県豊田市大字中野下町2番10号(14.1階) (14.1階) 豊田市大字中野下町2番10号(200㎡) (5.4階)		構造	S造	
用途地域	都市計画区域内 市街化調整区域		平均居住人員	80 人	
気候区分	6地域		年間使用時間	1,880 時間/年	
建物用途	事務所・工場		評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2026年3月 予定		評価の実施日	2025年7月24日	
敷地面積	5,330 m ²		作成者	二村 嘉一	
建築面積	1,570 m ²		確認日	2025年7月24日	
延床面積	2,404 m ²		確認者	二村 嘉一	
					



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮 3.7	③敷地内の緑化 2.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 30.6 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
②資源の有効活用 3.4	④地域材の活用 1.0	＜外装材に使用した地域性のある材料＞ なし ＜建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材＞ なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社中央エンジニアリング マニファクチャリングソリューションセンター(MSC)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階								
		独自基準			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分			
配慮項目	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境						0.35			-	2.7
1 音環境				0.1	3.0	0.15			-	3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40			-	
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40			-	
1 開口部遮音性能					3.0	0.60			-	
2 界壁遮音性能					3.0	0.40			-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-			-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-			-	
1.3 吸音					3.0	0.20			-	
2 温熱環境				0.3	1.6	0.35			-	1.6
2.1 室温制御				0.5	2.2	0.50			-	
1 室温				3.0	3.0	0.38			-	
2 外皮性能				3.0	3.0	0.25			-	
3 ゾーン別制御性				3.0	1.0	0.38			-	
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20			-	
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30			-	
3 光・視環境				0.2	2.9	0.25			-	2.9
3.1 昼光利用				0.3	1.8	0.30			-	
1 昼光率				3.0	1.0	0.60			-	
2 方位別開口						-			-	
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40			-	
3.2 グレア対策				0.3	4.0	0.30			-	
1 昼光制御		ブラインド+庇		5.0	4.0	1.00			-	
3.3 照度				3.0	3.0	0.15			-	
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25			-	
4 空気質環境				0.2	3.9	0.25			-	3.9
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50			-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。		3.0	4.0	1.00			-	
4.2 換気				0.3	3.6	0.30			-	
1 換気量				3.0	3.0	0.33			-	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室面積の1/30以上。		3.0	4.0	0.33			-	
3 取り入れ外気への配慮		汚染源のない方位に設けられていて、空気取り入れ口と排気口で6.3m離れている。		3.0	4.0	0.33			-	
4.3 運用管理				0.2	4.0	0.20			-	
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50			-	
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙。		3.0	5.0	0.50			-	
Q2 サービス性能					-	0.30			-	3.2
1 機能性				0.4	2.9	0.40			-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	2.3	0.40			-	
1 広さ・収納性				3.0	3.0	0.33			-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	0.33			-	
3 バリアフリー計画		独自		3.0	1.0	0.33			-	
1.2 心理性・快適性				0.3	3.3	0.30			-	
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	4.0	0.33			-	
2 リフレッシュスペース		設計室・センター長室 天井高2.8m、窓の設置あり。 リフレッシュスペースが執務スペースの6% 自動販売機の設置あり		3.0	5.0	0.33			-	
3 内装計画				3.0	1.0	0.33			-	
1.3 維持管理				0.3	3.5	0.30			-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50			-	
2 維持管理用機能の確保		①倉庫②SK④ごみ置き場⑤SK⑥コンセントあり ⑧排水トラップ取り外しできる⑨日常的に点検できる			4.0	0.50			-	
2 耐用性・信頼性				0.3	3.2	0.31			-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48			-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80			-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20			-	
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.8	0.33			-	
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.23			-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		② 押出成形セメント板 50年			5.0	0.23			-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		事務所:タイルカーペット20年 工場:ビニル床シート18年			4.0	0.09			-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08			-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					5.0	0.15			-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23			-	
2.4 信頼性				0.1	2.6	0.19			-	
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20			-	
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20			-	
3 電気設備		②		3.0	3.0	0.20			-	
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20			-	
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20			-	

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29				3.4	
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31					
1	階高のゆとり	工場:4.4m 事務所:4.85m 壁長さ比率 工場:0.14 事務所:0.15	-	5.0	0.60					
2	空間の形状・自由さ		3.0	4.0	0.40					
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31					
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38					
1	空調配管の更新性	ケーブルラック配線を行っている。 ケーブルラック配線を行っている。	-	3.0	0.17					
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17					
3	電気配線の更新性		3.0	5.0	0.11					
4	通信配線の更新性		3.0	5.0	0.11					
5	設備機器の更新性		3.0	1.0	0.22					
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22					
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.35				2.1	
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	2.0	0.30			2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	2.0	0.40			2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30			2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性					-				3.6	
LR1 エネルギー				-	0.40				3.8	
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.76	3.0	5.0	0.25		5.0	
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.15		3.0	
3 設備システムの高効率化				BEI=0.71	3.0	3.9	0.40		3.9	
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20		3.0	
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00			
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50			
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50			
集合住宅の評価					-	-	-			
4.1 モニタリング					-	-	-			
4.2 運用管理体制					-	-	-			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				3.4	
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15			3.4	
1.1 節水				3.0	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60				
1				3.0	3.0	0.67				
2				3.0	3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.6	0.63			3.6	
2.1 材料使用量の削減			② 独自 照明・大便器 LGS+PB OAフロア	-	2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	4.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み				3.0	5.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22			3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68				
1				-	-	-				
2				-	3.0	0.50				
3				3.0	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境				-	0.30				3.4	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率80%	-	3.7	0.33		3.7	
2 地域環境への配慮					0.3	3.5	0.33		3.5	
2.1 大気汚染防止				燃焼機器を使用していない。	-	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.0	0.25			
1			独自		-	3.0	0.25			
2					-	3.0	0.25			
3			独自	適切な量の自転車置場・駐車スペースあり、 荷捌き用車両の駐車施設の確保、導入路が大きな交差点付近にな いため渋滞の原因とならないよう配慮されている。		5.0	0.25			
4						1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					0.3	3.1	0.33		3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40			
1			独自		-	3.0	0.33			
2			独自		-	3.0	0.33			
3					-	3.0	0.33			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40			
1					-	3.0	0.70			
2					-	1.0	-			
3					-	3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					0.2	3.7	0.20			
1				光害対策ガイドラインのチェックリストを一部満たす・ 広告物照明の扱いの配慮事項の過半を満たす	-	4.0	0.70			
2						3.0	0.30			

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社中央エンジニアリング マニファクチャリングソリューションセンター(MSC)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	3.4
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.10	外構緑化:30.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称

株式会社中央エンジニアリング マニュファクチャリングソリューションセンター(MSC)

計画上の配慮事項	
総合	環境・利用者の快適さ・周辺地域への交通影響に配慮した建物である。
Q1 室内環境	建物全体が禁煙であるため、他人が吐くたばこ煙による受動喫煙が発生しない。
Q2 サービス性能	高い天井高により、利用者によって広く感じる空間となっている。
Q3 室外環境(敷地内)	多くの範囲を緑化し、緑の量を確保している。
LR1 エネルギー	熱負荷抑制を行い、冷暖房の使用エネルギー量を削減している。
LR2 資源・マテリアル	環境負荷が小さい複数のリサイクル資材を採用している。
LR3 敷地外環境	自動車利用による交通負荷を抑制している。
その他	